

sinre シンレ

このパンフレットで取り上げた演目の
伝承地をご紹介します。

公演で紹介したほかにも各地に特色ある
豊かなアイヌ文化があります。

※このパンフレットでは、伝承が記録された
当時の地域名で表記しています。



バセノポ イヤイライケレ 演目指導伝承者

各地の伝承者にご指導いただいています。

| 山丸 和幸氏 (白老) | 高橋 志保子氏 (白老) | 押野 千恵子氏 (鶴川) | 酒井 奈々子氏 (帯広)
| 酒井 真理氏 (帯広) | 吉根 加奈氏 (帯広) | 秋辺 日出男氏 (阿寒) | 山本 栄子氏 (阿寒)
| 渡辺 かよ氏 (阿寒) | 平良 智子氏 (阿寒)

アイヌ古式舞踊は国が指定する重要無形民俗文化財であり、
ユネスコの無形文化遺産にも登録されています。

重要無形民俗文化財指定保存会

| 阿寒アイヌ民族文化保存会 | 千歳アイヌ文化伝承保存会
| 旭川チカプニアアイヌ文化保存会 | 弟子屈町屈斜路古丹アイヌ文化保存会
| 涌河アイヌ文化保存会 | 新冠民族文化保存会
| 帯広カムイノウボボ保存会 | 鶴川アイヌ文化伝承保存会
| 札幌ウボボ保存会 | 春採アイヌ古式舞踊釧路リムセ保存会
| 様似民族文化保存会 | 平取アイヌ文化保存会
| 静内民族文化保存会 | 三石民族文化保存会
| 白老民族芸能保存会 | 門別ウタリ文化保存会
| 白糠アイヌ文化保存会

伝統芸能上演

ICE JAPANESE DANCE

ウエカリ
チセ

体験交流ホール

UPOPOY
NATIONAL AINU MUSEUM AIBI PARK

uekari cise

ウ
エ
カ
リ
チ
セ

ウボポイ(民族共生象徴空間)は、北海道や樺太など各地で伝承されてきた先住民族アイヌの多様な文化の伝承と復興に取り組んでいます。

アイヌの伝統芸能は、儀礼や日常のさまざまな場面で演じる、生活に欠かせないものです。その時々的心情をうたう叙情的な歌から動植物をモチーフにした踊り、魔祓いの踊りや杵つきなどの作業の様子を表した踊り、娯楽性のある舞踊劇など、その種類は多岐にわたります。歌や踊りはリムセ、ホリッパ、ウボポ、ヘチリなど地域によって呼び方が異なり、その土地ごとの特色を色濃く反映させながら各地で受け継がれてきました。今日では音楽や舞台劇など多様な活動も行われており、世界に向けてもアイヌの伝統芸能を発信しています。

ウエカリ チセ(体験交流ホール)では、日本全国から集まったアイヌとシサム*がともに力を合わせ、各地の伝承者に協力をいただきながら、さまざまな時代の伝統芸能を伝承・復興し、その魅力を伝えています。

ピリカノ ヌカラ ヤン(楽しんでご覧ください)

*シサム…「隣人」の意味で、和人を指す



ハンチカプ リムセ

hancikap rimse 水鳥の踊り (白老)

水面に浮かぶ水鳥の動きを模して、2つの縦列を作り、手足を優雅に動かしながら互いに競い合う様子が踊りになっています。

エムシ リムセ

emus rimse 刀の踊り (阿寒)

その場の魔を祓う踊りなどといわれ、北海道東部で盛んに踊られてきました。近年では男性の代表的な踊りのひとつとされています。

イヨマンテ リムセ

iyomante rimse 熊の霊送りの踊り (白老)

饗宴が最高潮に達した時にイヨマンテ リムセの輪踊りが始まります。いくつもの歌を歌いつなぎ、先歌に合わせて踊りが変化していきます。掛け声やホロロセと呼ばれるお囃子なども特徴的です。

イェトコチャシヌレアイ

ietokocasnureay その先を清める矢

キムンカムイの魂がカムイの世界へ帰る方向を示すとともに、その道を清める矢です。





カムイノミ

kamuynomi

イヨマンテのような大きな儀礼では、その地域・家系にとって大切な多くのカムイへ祈りを捧げます。カムイへの祈りは火のカムイによる口添えて届きやすくなると考え、すべての儀礼は火のカムイへの祈りで始まります。

カムイノミでは、

手に持った酒杯とイクパスイを用いて神酒を捧げます。

祈りを終えた後の神酒は参列者に回し、

カムイとアイヌが同じ杯を分け合います。

特別な料理やタバコ、演じる数々の芸能も

カムイとアイヌの交流に彩りを添えます。

タプカラ

tapkar 踏舞 (各地域)

宴のはじめに、男性が力強い動きと喉を駆使した発声を披露し、重要な客人やカムイをもてなします。その声と身体の使い方によって演じる者の個性が際立ちます。

ウポポ

upopo 座り歌 (白老)

交易で手に入れたシントコと呼ばれる漆塗りの器の蓋を使って拍子とり、ウコウクと呼ばれる輪唱をしながら、裏声や息を吐く音などを織り交ぜて歌います。地域によってロクウポポ、ヘチリなども呼ばれています。



シノツ

sinot

伝承のかたち

私たちは各地の伝承者から直接ご指導いただき、その土地の演目を受け継いで紹介しています。アイヌの伝統芸能は伝承されたものを即興的に変化させることも多く、時代に合わせて今も伝統が続いています。北海道の美しい自然を背景に、各地で受け継がれてきた歌や踊り、楽器の演奏など、さまざまな伝統芸能をお楽しみください。



『シノッ』では、以下の演目から
毎回 5 演目をご紹介します。

どれをご紹介しますかお楽しみに！

ウポポ

upopo 座り歌 (白老)

交易で手に入れたシントコと呼ばれる漆塗りの器の蓋を使って拍子を取り、ウコウクと呼ばれる輪唱をしながら、裏声や息を吐く音などを織り交ぜて歌います。

地域によってロク ウポポ、ヘチリなどとも呼ばれています。

サロルン リムセ

sarorun rimse 鶴の踊り (帯広)

北海道各地に伝わる鶴を題材にした踊りのひとつです。親鶴が子鶴に羽ばたき方を教え一緒に大空を飛んでいく様子を表しています。

フッタレ チュイ

huttare cuy トドマツの踊り (帯広)

嵐の日に松の木が風に揺れている情景を表している踊りといわれています。動きが激しいことから体力比べ・踊り比べ、また、長い黒髪の女性が多く踊っていることから、近年では黒髪の踊りともいわれています。

イヨマンテは、約2週間前から準備を始め、数日間にわたり祈りを捧げてカムイの世界への旅立ちを祝います。イノミでは、儀礼の流れを再現するなかでイヨマンテの精神をご紹介します。

イユタ ウポポ

iyuta upopo 杵つき歌 (平取)

杵と臼を使い、米、稗、粟などの穀物を脱穀・製粉する際に歌います。歌に合わせてつくことで作業のタイミングを合わせるすることができます。人数によって2拍子や3拍子を使い分けます。

サケカラ ウポポ

sakekar upopo 酒づくりの歌 (阿寒)

儀礼に必要な酒づくりは女性が行うものとされ、米や稗、粟などの穀物と麴を原料に仕込みます。酒をこすときには樽を囲み楽しみながら歌い踊ります。

タクサ リムセ

takusa rimse お祓いの踊り (阿寒)

ササやヨモギなどで作られたタクサは、両手に持ちフッサ、フッサと唱えながら地面や家の中などをたたくことで、その場を清めることができるといいます。阿寒で生まれた踊りで、儀礼やお祭りの前に踊ります。





白老コタンのリムセ(踊り) 大正～昭和初期

アイヌはあらゆるものに魂が宿ると考え、私たちにない力を持つものをカムイと呼びます。カムイは、彼らの世界では私たちと同じような姿で暮らしており、私たちの世界に訪れるときにさまざまなものの姿になって現れるといいます。熊はキムンカムイと呼び、毛皮や肉はキムンカムイからの贈り物と考えてきました。

イヨマンテは、そのカムイに感謝の祈りを捧げ、酒や歌、踊りでもてなし、土産とともにカムイの世界へ送り帰す重要な伝統儀礼です。



シチョチョイ

sicocoy 豊作の踊り (本別)

種蒔きや土かけ、収穫、団子づくりなどの農作業の一連の流れを踊りにしたもので、豊作を願い、収穫の喜びを伝える踊りです。

フッサ ヘロ

hussa hero 病魔祓いの踊り (鶴川)

コタンで流行り病があった時にその病魔を祓った踊りとして伝わっています。病人にフッサ、フッサと息を吹きかけ、地面を踏み鳴らし、その病魔を祓います。

エムシ リムセ

emus rimse 刀の踊り (阿寒 / 白老・阿寒)

その場の魔を祓う踊りなどといわれ、北海道東部で盛んに踊られてきました。近年では男性の代表的な踊りのひとつとされています。

ク リムセ

ku rimse 弓の踊り (阿寒 / 白老・阿寒)

狩りに出かけた男性が鳥を射ようとしたが、あまりの美しさに射ることができなかった様子を表しています。また、儀礼などで悪い魔を祓うために踊るものともいわれています。

イヨマンテ リムセ

iyomante rimse 熊の霊送りの踊り (白老)

狩りで得た動物の魂をカムイの世界に送り帰す儀礼「イヨマンテ」や祝いの席で楽しむために踊ります。いくつもの歌を歌いつなぎ、先歌に合わせて踊りが変化していきます。掛け声やホロロセと呼ばれるお囃子なども特徴的です。



ウウェランカラブ

uwerankarap 正式な挨拶 (各地域)

正式な作法にのっとった挨拶で、それぞれが自分の節にのせ、
格式高い特別な言葉を使って行われます。

ユカラ / サコロペ

yukar / sakorpe 英雄叙事詩

(白老 / 平取 / 旭川 / 帯広 / 白糠)

儀礼や日々の暮らしのなかで語られてきた娯楽性の高い物語
です。主人公の多くは超人的な能力を持っており、空を飛ん
だり、遠くを見透かしたりします。日常とは異なる特別な言葉
を用い、節やリズムなど話し手の持てる技術を発揮して語り
ます。地域によってヤイラブ、ハウキなどとも呼ばれています。

ムックリ

mukkuri 口琴 (各地域)

小さな弁の音を口の中で響かせて鳴らす「口琴」と呼ばれる
楽器がユーラシア各地にあります。ムックリはそのひとつで、
竹や鉄などで作られてきました。自然界に聞こえる雨や風の音、
動物の鳴き声、時には自分の感情を音色にのせて自由に表
現します。地域によってムックル、ムック、ムフクン、ムフクナな
ども呼ばれています。



イノミ

inomi

創造のかたち

アイヌの精神文化を象徴するイヨマンテ
(熊の霊送り)では、数多くの歌や踊りで
カムイをもてなします。現代では、イヨマンテ
について見聞きする機会が少なくなり、
先人たちが執り行ってきた当時の感覚を
知り次代に伝えていきたいという想い
から「イノミ」が生まれました。イノミでは、
踊りの原点ともいえる祈りの心を表現し
ます。





エムシ リムセ

emus rimse 刀の踊り (銅路 / 阿寒)

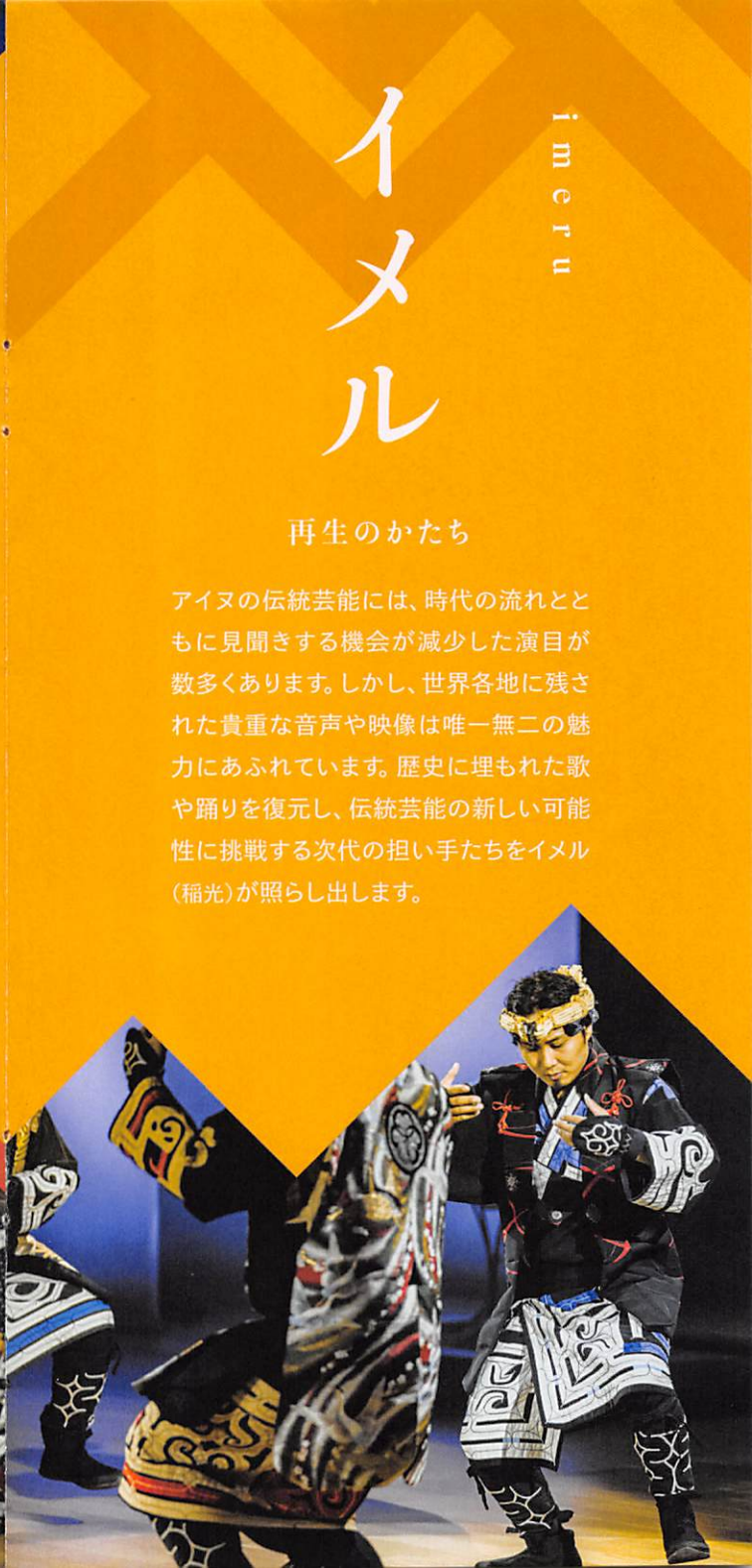
その場の魔を祓う踊りなどといわれ、北海道東部で盛んに踊られてきました。近年では男性の代表的な踊りのひとつとされています。

イヨマンテ リムセ

iyomante rimse 熊の霊送りの踊り (白老)

狩りで得た動物の魂をカムイの世界に送り帰す儀礼「イヨマンテ」や祝いの席で楽しむために踊ります。いくつもの歌を歌いつなぎ、先歌に合わせて踊りが変化していきます。

掛け声やホロロセと呼ばれるお囃子なども特徴的です。



イメル

i m e r u

再生のかたち

アイヌの伝統芸能には、時代の流れとともに見聞きする機会が減少した演目が数多くあります。しかし、世界各地に残された貴重な音声や映像は唯一無二の魅力にあふれています。歴史に埋もれた歌や踊りを復元し、伝統芸能の新しい可能性に挑戦する次代の担い手たちをイメル(稲光)が照らし出します。



タップカラ

tapkar 踏舞 (各地域)

宴のはじめに、男性が力強い動きと喉を駆使した発声を披露し、重要な客人やカムイをもてなす踊りです。その声と身体の使い方で演じる者の個性が際立ちます。

ウポポ

upopo 座り歌 (各地域)

交易で手に入れたシントコと呼ばれる漆塗りの器の蓋を使って拍子とり、ウコウクと呼ばれる輪唱をしながら、裏声や息を吐く音などを織り交ぜて歌います。

地域によってロク ウポボ、ヘチリなどとも呼ばれています。

ムックリ

mukkuri 口琴 (各地域)

小さな弁の音を口の中で響かせて鳴らす「口琴」と呼ばれる楽器がユーラシア各地にあります。ムックリはそのひとつで、竹や鉄などで作られてきました。自然界に聞こえる雨や風の音、動物の鳴き声、時には自分の感情を音色にのせて自由に表現します。地域によってムックル、ムック、ムフクン、ムフクナなどとも呼ばれています。

サルルンカムイ リムセ

sarurunkamuy rimse 鶴の踊り (白老・阿寒)

北海道各地に伝わる鶴を題材にした踊りのひとつです。親鶴が子鶴に羽ばたき方を教え一緒に大空を飛んでいく様子を表しています。この踊りは白老と阿寒の交流のなかで生まれました。

